

特集 町並みスケッチ～松合～

「20数年前までは土蔵白壁もたくさんありました。しかし壁が落ちて傷んだ時の修復など、維持費にお金がかかります。だから大きい家からどんどん取り壊されていったんです。当時、今のようなシステム（街なみ環境整備事業）があれば、もっと残っていたでしょうね。しかしこれだけ残っているということでは、修復する左官職もたくさん

いたということ。当時の松合は相当繁栄していたんでしょう」心配なこともあるそうです。「この地区も高齢化が進み、若い世代はほとんど都会へ出て行っています。せっかく改修した土蔵白壁の家、『何らかの活用を考えていかななくては』と会でも話しています。市にはまちづくりアドバイザーもいらっしやるし、今後はそういった地区外の人たちの知恵を借りて、町づくりを進める必要があるでしょう。また、まっちゃ活かそう会や町並み保存会など、活性化団体の会員の高齢化と後継者不足も不安のひとつです。松合以外の人たちも、会に賛同してもらえればと思います」



都市景観大賞「美しいまちなみ賞」優秀賞の表彰状

こうした一抹の不安を抱えながらも、人々の町づくりに対する情熱は消えません。住民だけではなく、小中学生や企業をも

町並みを大切にすること それを伝える心がある だからふるさとが変わらない

「こんにちは」「暑かですね」本町通り商店街を歩くと、地元の人が笑顔で声を掛けてくれます。

「この地区も高齢化が進み、若い世代はほとんど都会へ出て行っています。せっかく改修した土蔵白壁の家、『何らかの活用を考えていかななくては』と会でも話しています。市にはまちづくりアドバイザーもいらっしやるし、今後はそういった地区外の人たちの知恵を借りて、町づくりを進める必要があるでしょう。また、まっちゃ活かそう会や町並み保存会など、活性化団体の会員の高齢化と後継者不足も不安のひとつです。松合以外の人たちも、会に賛同してもらえればと思います」

一体となった取り組みが現在も続けられているのです（下記参照）。その努力が報われるべき、うれしいニュースが到来しました。平成14年2月、松合の町並みが第7回くまもと景観賞を受賞。また同年10月には、国土交通省の外郭団体で組織する「都市景観の日」実行委員会から、都市景観大賞「美しいまちなみ賞」の優秀賞が贈られたのです。住民・団体・行政が三位一体となったことによって生まれた、素晴らしい証です。



①土蔵白壁造建物の妻壁側上部に漆喰で描かれた漆喰彫刻の「鰻絵」は、左官技術の極致とされます。②郷土資料館には地元の人たちから寄贈された屋号が入った徳利など、当時の民具や漁具などが展示されています。③松合出身の劇作家・宮本研はテレビドラマや映画シナリオなど500あまりの作品を残しています。その中の著作類が郷土資料館に展示されています。④仲西舟溜。この港には明治維新後、天草や島原をはじめ遠く五島、薩摩からも魚が運ばれてきました。手前の柱に赤く記された線は、台風18号来襲時の水位。⑤平成12年の街なみ環境整備事業で修復された住家を改造して鈴木巽さん（84歳・仲地区）がつくった「街かど美術館」。自身が作成した絵画を展示しています。⑥土蔵白壁の中に残る赤煉瓦の建物。⑦街なみ環境整備事業により美しく修復された土蔵白壁造建物。

松合地区をめぐるさまざまな取り組みの一部を紹介します

商店街を活性化させようと、まっちゃ活かそう会が始めた「まっちゃ朝市」は今年で13年目を迎えます。毎月第3日曜日の早朝、本町通り商店街は、地元で採れた海の幸・山の幸を求める人でにぎわいます。8月12日（土）には、第5回まっちゃふれあい夏祭りを開催する予定です。

平成12年から地区住民所有の蔵で、松合小児童が土蔵白壁の修復作業体験を行っています。また昨年9月、当時の不知火中3年生がPTAと地域の人たちの支援を受けて、高さ1.7m、長さ11mの土蔵白壁を正門近くに造りました。いずれも土蔵白壁の歴史や工法を学ぶために行われたものです。

松合ビジターセンターには常時、松合の町並み保存会の会員がいて、松合の歴史や文化を分かりやすく解説する案内人として活躍しています。20分程度で散策できるコースもあるそうなので、皆さんも体験してみたいはいかがでしょうか。

取材を終えて 「漁に出たら地区に残るのはお年寄りや女性、子どもです。そんな時に火事になったら大変ということであつたので、防火の町づくりにつなげたのでしよう」という田尻さんの話を聞きながら、町づくりに対する人の思いは、今も昔も変わらないものなのだと思います。平成11年の台風は、松合の人々と風景に大きな爪跡を残しましたが、風情あるふるさとを残そうとする人の心までは奪うことができませんでした。 「残したい伝えたい心のふるさと」というキャッチフレーズの下、これからも人々とともに伝統の町並みが生き続ける松合であってほしいものです。（あさり）

土蔵白壁あれこれ

何層にも厚く塗り重ねられた土蔵造りの漆喰壁は密閉性に優れ、耐熱力はコンクリート壁同等であるといわれます。特に、灰を使ったものが最良とされ、火災の時、水をかけると炭酸ガスが発生して、火力を弱める働きがあるともいわれています。土蔵造建築は腰壁が一番傷みやすく、この腰壁を補強するために「海鼠壁」が多く使われています（2ページ写真参照）。海鼠壁は平瓦を腰壁に竹くぎで張り付け、その継ぎ目（目地）に漆喰を盛り上げて塗り込む工法で、その目地漆喰の形が海鼠に似ているということからこの名が付いたといわれます。海鼠壁は美観も重視され、瓦の張り方やデザインにはさまざまな工夫がなされています。

後世に誇る町並み

土蔵白壁を修復・保存し、伝統的な町並みを残そうという機運が高まり、平成6年、住民と行政が一体となった松合地区景観整備計画が策定されました。平成9年には景観形成住民協定が県知事認定を受け、平成10年度から、国の補助事業である街なみ環境整備事業を開始。現在もこの事業により、歴史的な文化遺産の保存と伝統的景観形成が進められています。 ◎街なみ環境整備事業：大きく次の2つの事業に分けられます。 ①道路や井戸など公共施設を整備するための補助事業 ②家などを一定の基準に沿って町並みに合った修復などをする場合に市から補助金を交付する修景事業 ※2カ月に一度（希望者には随時）、松合ビジターセンターで建築相談会を行っています。 〇 不知火支所建設課 〇 33-1111 〇 松合ビジターセンター 〇 42-3550

土蔵白壁造建物の現況（平成15年12月現在）

現存数	58戸（69棟）内、漆喰惣塗籠大壁造41棟
建物用途別棟数	住居専用33棟・住居店舗7棟・住居倉庫19棟・倉庫15棟
築年別棟数	江戸時代14棟（文政年間4棟・安政年間4棟・文久年間5棟・慶応年間1棟）明治初期26棟・明治中期23棟・明治後期6棟・昭和初期1棟